史跡

国指定

茶臼山古墳・小茶臼山古墳

ちゃうすやまこふん・こちゃうすやまこふん

大津市膳所平尾町ほか　大正10年3月3日指定

湖西南エリア

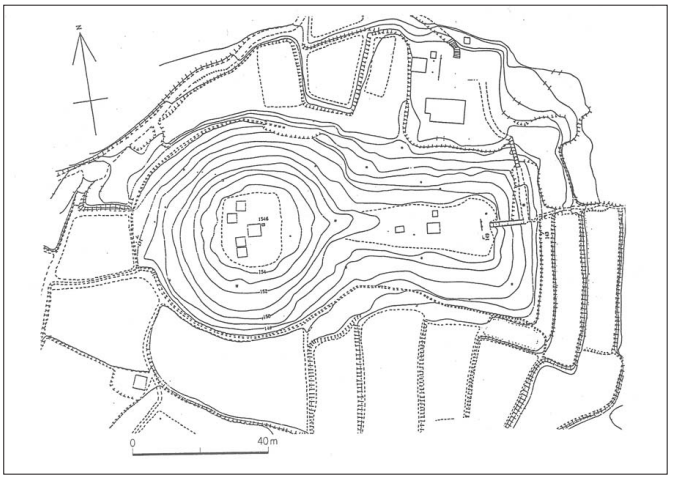
滋賀県

茶臼山古墳は、古墳時代前期に築造された前方後円墳で、県下2位の大きさを誇ります。古墳は、水陸の交通の要衝に築かれており、墳丘からは琵琶湖と湖岸を通る東海道を一望することができます。小茶臼山古墳は、茶臼山古墳の陪塚（ばいちょう）と考えられる円墳です。

当時のできごと	
372年	石上神社　七支刀銘
391年	倭が朝鮮で百済・新羅と戦う
四世紀末	王仁、論語を伝える

茶臼山古墳の概要

茶臼山古墳は、西に後円部をおく全長約122mの前方後円墳で、その大きさは瓢箪山古墳（学習シートNo.028）の全長約134mに次ぐ県下で2番目の大きさです。墳丘の高さはおおよそ10mほどです。墳丘の内部は調査されていませんが、墳丘の西側、東側の調査では、葺石の一部と周濠が確認されています。また、調査で出土したものではありませんが、ここから出土したといわれる円筒埴輪が保管されており、この年代や墳丘の構造から、この古墳は古墳時代前期の4世紀後半に築造されたと考えられています。



茶臼山古墳測量図



茶臼山古墳



昭和30年代の航空写真

小茶臼山古墳

小茶臼山古墳は、茶臼山古墳の南約200mの丘陵上に造られた、直径約18m、高さ約2.5mの円墳です。調査が全く行われていないことから、明確なことはわかりませんが、立地から茶臼山古墳の陪塚ではないかと考えられています。



小茶臼山古墳

古墳の立地

この二つの古墳は、琵琶湖から流れ出る唯一の河川である瀬田川河頭の西、音羽山から延びる尾根の先端部に造られています。琵琶湖を見おろす位置にあり、湖上を行き来する船を間近に見ることができます。また、古墳の東は、壬申の乱（672年）で最後の決戦の場となった禾津岡（あわづのおか）に面し、陸上交通や軍事上の要衝の地に造られていたことがわかります。おそらく、この古墳に葬られた主は、湖上、陸上の交通を支配することにより、大きな力を得た人物と考えられます。また、古墳の形から大和王権との強い関わりも考えられます。

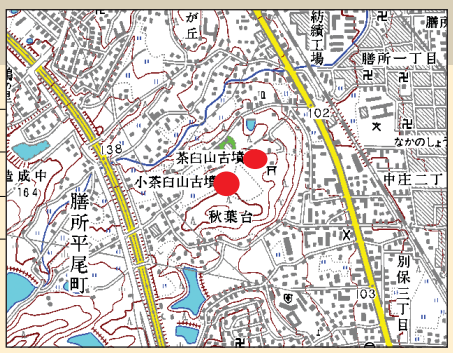
茶臼山古墳のように、琵琶湖を見おろす位置に造られた前方後円墳は、同じように、琵琶湖や交通を支配した王達の墓である可能性が考えられます。

関連する文化財

瓢箪山古墳（安土町）	学習シートNo.028
雪野山古墳（八日市市・近江八幡市・竜王町）	未盗掘の前期前方後円墳
和迩大塚古墳（志賀町）	琵琶湖を見おろす高台に築造された湖西最大の前方後円墳
荒神山古墳（彦根市）	荒神山の中腹の琵琶湖を見下ろす位置にある大前方後円墳

もっと深く知りたい

安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23
大津市教育委員会	☎077-528-2638	大津市御陵町3-1
大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
茶臼山古墳・小茶臼山古墳へのアクセス	JR琵琶湖線　膳所駅下車	



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月